

令和5年度 第2回岐阜県図書館協議会議事要旨

1 開催日時 令和6年3月15日(金) 午後1時30分～午後3時30分

2 開催場所 岐阜市宇佐4丁目2-1
岐阜県図書館 2階 特別会議室

3 会議日程

- ・ 館長挨拶
- ・ 委員長挨拶
- ・ 議 題

○協議事項

- (1) 令和5年度図書館評価の中間報告について
- (2) 第3次岐阜県図書館の運営方針(案)について
- (3) 令和6年度アクションプラン(案)について

4 委員の現在数 10名

5 出席委員の人数及び氏名 9名

委員長	高橋 宗彦
副委員長	伊東 直登
委員	天野 知子
委員	大成 朋広
委員	大藪 千穂
委員	高木 誠
委員	南條 千恵美
委員	林 佳苗
委員	横山 真一

事務局出席者

杉下館長、大野副館長、小池総務課長、西垣主幹、石井企画課長、和田サービス課長、平下管理調整係長、寺井資料係長、加藤図書利用係長、青谷調査相談係長、総井郷土・地図情報係長、渡辺主任(記録)

県民文化局出席者

文化伝承課 日比野管理調整監

6 議事の経過及び結果

[午後1時30分、大野副館長の司会進行により、協議会の開会に先立ち館長から挨拶を行った]

[杉下館長 挨拶要旨]

本日は、委員の皆様には、ご多用のところ、ご出席をいただき感謝申し上げます。また、日頃は岐阜県図書館の運営に対しご協力・ご支援・ご指導を賜り、重ねて御礼を申し上げます。

開会にあたり、近況報告を申し上げます。まずは、県図書館において、令和6年度に創立90周年、令

和7年度には新館開館30周年を迎える。この度、県民の皆様からの投票も得て、記念ロゴマークを作成したところ。お手元の配布資料のとおり、デザインは本棚をイメージしたもので、裏面には啓発グッズの葉のデザインも載せている。今後は、気運の醸成を図るとともに、記念事業も展開してまいりたい。

次に、懸案となっていた収蔵能力の確保、所謂、図書の保管スペースの増設である。今年度、費用対効果や運営面への影響なども考慮しつつ、あらゆる方法を比較検討のうえ、収蔵能力確保基本計画を策定。この計画は、既存施設内で集密化を行い、収蔵能力を令和6年度中に約20万冊分の増設を図るもので、予算は只今、3月の県議会に上程中。詳細は後ほど、関係課長からご説明をさせていただく。

最後に、職員の人材育成について申し上げる。今年度から、更なる職員の資質向上を図るため、新たに、国立国会図書館への研修派遣を行った。具体的には、本日出席の企画課長が先月2月の1カ月間、東京の国立国会図書館で実務も経験することで学んできた。今後も派遣を継続し、国とのホットラインを形成・維持するとともに、館内は勿論のこと、市町図書館へも研修の成果を還元していきたい。

本日は、3点、「令和5年度図書館評価の中間報告」、「第3次運営方針」、そして、「令和6年度アクションプラン」についてご協議いただく。委員の皆様から忌憚のないご意見をいただければと思う。

[事務局から本日の出席者について、委員10名中9名が出席しており、定足数に達している旨を報告]

[事務局から委員長が当協議会の議長になることを説明し、委員長が進行を務めた]

[委員長は、「協議事項(1)令和5年度図書館評価の中間報告について」事務局の説明を求めた]

[事務局(和田サービス課長)から、「協議事項(1)令和5年度図書館評価の中間報告について」説明]

[事務局(小池総務課長)から、「図書館書庫改修事業について」説明]

[委員長は、「協議事項(1)令和5年度図書館評価の中間報告について、図書館書庫改修事業について」委員の発言を求めた]

(伊東委員)

図書館書庫改修事業について、燻蒸室に集密書架が入るとしているが、燻蒸機能はどうなるか。また、地図収蔵庫の地図はどうなるか。

(小池総務課長)

現在、燻蒸は会議室を活用して行っており、燻蒸室は使用していない。地図資料の多くは地図収蔵庫内のマップケースに収蔵されており、改修期間中はこのマップケースを地図収蔵庫内の一角に寄せたうえ、集密書架を設置する計画である。なお、地図書庫の資料は一時外部へ移設する。

(林委員)

一部の資料の貸出ができない期間というのはいつ頃か。夏休みなど利用が多い時期は大丈夫か。

(小池総務課長)

夏ごろに、最長で3カ月ほどの期間となる。スケジュール上、夏休みからしか取り掛かれない。

(高木委員)

前回の会議では中2階で検討していたと思うが、今回示された2階は耐荷重に問題はないか。

(小池総務課長)

基本計画で精査した結果、耐荷重に問題は無い。

(大藪委員)

今後16年間の収蔵に対応とのことだが、これからは他機関との共同保管もあるかと思う。16年後の計画はあるのか。

今後、収蔵能力について引き続きシミュレーションしていくことは必要である。

(小池総務課長)

16年後以降については、まだ具体的な計画はない。電子書籍など収集の仕方も影響する。今後、検討していく。

(杉下館長)

県有施設全体の問題として県財政当局との相談が必要。間を置かず、引き続き検討していかなければならない。あわせて、除籍基準に基づく除籍も進めていく。

(横山委員)

様々な取組みでの学校教育への寄与が高く、有難い。指標について、今年度貸出冊数とレファレンス件数が減っているが原因は何か。

(和田サービス課長)

現時点では原因について明言は難しい。

(横山委員)

セット文庫の利用の伸び悩みは、認知度によるかもしれない。また、市町図書館からの貸出ができていないことによる影響もあるかもしれない。来館者数は伸びているが、貸出冊数は伸び悩みの状態であることについて、本を実際に手に取る良さを伝えていきたい。

(天野委員)

伸び悩みについてはサービスの周知が足りないと考える。子どもたちが学校から公共図書館の利用に繋がっていない印象がある。セット文庫のレベルが少し高いようにも感じる。分かりやすい、使いやすい本をセット化するとよい。

(南條委員)

家の子どもたちは本が好き。読書感想文で取り上げた本を図書館で見つけて親しみを感じることもある。自宅では子どもたちはタブレットで調べ物をしていることが多い。

(高橋委員長)

学校ではタブレットを使う探究学習もあるが、テーマの背景や先人の取組みなど流れを知るにはタブレットだけでは難しく、図鑑など本で調べる方が便利という声も現場から聞いている。

(大成委員)

メディアに取り上げられた件数が減っているということだが、一覧資料を見ると、新聞はそれほど減っていない。Web など、図書館で情報発信することが増えており、新聞紙面で取り上げる意味は薄れてきている。新聞では「深掘り」できる紙面を目指していく。

(伊東委員)

貸出冊数に電子書籍は含まれているか。

(和田サービス課長)

含まれていない。

(伊東委員)

昔は紙の本の貸出がメインだった。今は「紙の本 vs 電子書籍」ではなく、データベースや電子資料など総合的にサービスを提供していくことを考えていくべき。全国的な問題として、岐阜県図書館から発信して取り組んでみてもよい。

(高木委員)

窓口サービスの満足度が2年前から若干落ちているのが気になる。今後分析してみてもどうか。

(大藪委員)

今後、指標の作り方自体も確認する必要がある。岐阜大学では、中学生への案内として図書館をPRした。規模の大きさに驚く様子があり、よいPRとなった。県図書館でもすでに行っているかもしれないが、学校行事に図書館見学を取り入れるとよい。

[委員長は、「協議事項(2)第3次岐阜県図書館の運営方針(案)について、令和6年度アクションプラン(案)について」事務局の説明を求めた。]

[事務局(石井企画課長)から、「協議事項(2)第3次岐阜県図書館の運営方針(案)について、令和6年度アクションプラン(案)について」説明]

[委員長は、「協議事項(2)第3次岐阜県図書館の運営方針(案)について、令和6年度アクションプラン(案)について」事務局の説明を求めた。]

ラン（案）について」委員の発言を求めた]

（伊東委員）

はじめに確認だが、「運営方針（案）をここで諮ったのち公表」と言っていたが、協議会は決定機関ではないがよろしいか。

（大野副館長）

今回案を提示し、委員の皆様からご意見を伺ったのち、公表する流れである。

（横山委員）

令和5年度の評価を受け、学校教育分野について拡充する内容であり有難い。

（林委員）

多岐にわたる、きめ細やかな取組内容である。「社会的課題解決の支援」の項目にある発達障がい者等への支援に関連して、各務原市では特別支援学校が開校するにあたり、県図書館の事例を参考に、関連の講演会や相談会を予定しており、県図書館から講師を紹介してもらった。教職員向けにも行うことになり、今後もよろしく願いたい。

（大藪委員）

多くの取組みを行っている。職員研修については、デジタル系の内容も含めること、多くの職員が参加できるようにすることが大事である。

（南條委員）

今回、協議会に出席し、多くの取組みを行っていることが分かった。図書館探検があったら、子供たちも喜ぶのではと思う。

（石井企画課長）

図書館関係ツアーについては、春のこどもの読書週間に合わせて行っている。普段入れない書庫にも入ることができる。

（高木委員）

委員の意見を反映した内容となっている。県立図書館としての矜持を持って取り組もうとしている。大学連携も続けて欲しい。とはいえ、利用の拡大、Webとかプレスリリース等でのアピールなど少しずつでも怠ることなく周知をして欲しい。

（大成委員）

拡充、新規の事業がたくさんある。廃止する予定の事業はあるか。

（石井企画課長）

現時点で廃止事業は特になし。見直しをして継続する方向である。

(大成委員)

人員も限られており、見直しや無くしていくものを検討することも必要である。持続可能な運営を考えていく必要がある。

(伊東委員)

委員の意見を反映した内容になっている。県立としての自覚や誇りを認識した内容である。基盤を整備しないと何も始まらない。基盤の「人」、「資料」（「金」はなかなか難しいが）は素晴らしく、市町と連携して拡充してほしい。

(天野委員)

コロナ禍後の読み聞かせでは、子どもたちの表情と感情の無さに愕然とした。その後しだいに打ち解けていくのを実感した。発達障がい児への読み聞かせやセット文庫の充実などによる公共図書館の取り組みが家庭での読書にも繋がっていくことを望む。多くの人に利用してもらえよう広報に努めてほしい。

(高橋委員長)

令和6年は総文祭と国文祭の「文化祭2024」という大きなイベントがある。一過性でなく、開催後も地域の文化芸術を知り、推進していくこと、続けていくことが大事である。

[委員長は、各委員の意見を参考に事業を進めるよう事務局に依頼し、今後のスケジュールについて事務局に説明を求めた]

[事務局から、今後のスケジュールについて説明。次回の協議会は、令和6年7月頃の開催を予定]

[本日の協議事項の審議がすべて終了したことを確認し、午後3時00分に閉会宣言した]